



## 1 稲佐の浜

旧暦10月10日、全国からお越しになつた八百万の神々を、出雲大社の西にある浜でお迎えします。「国譲り」や「国引き」の神話の舞台となつた砂浜は、日本の渚・百選にも選ばれており、弁天島に夕日がかかる様子はぜひ一度はご覧いただきたく出雲の景色です。島根県初の海水浴場となつたことでも知られています。

## 2 神迎の道

稻佐の浜からお迎えした八百万の神々は、「神迎の道」と呼ばれる神聖な路を、出雲大社へと向かわれます。

## 3 出雲大社

ご祭神は、「因幡(いなば)の白兔」の主人公「だいこくさま」の愛称で知られる大国主大神(おおくにぬしのおおかみ)。国宝に指定されている本殿は、平成25年5月に、60年に一度の「平成の大遷宮」本殿遷座祭が執り行われました。

## 4 十九社(出雲大社境内)

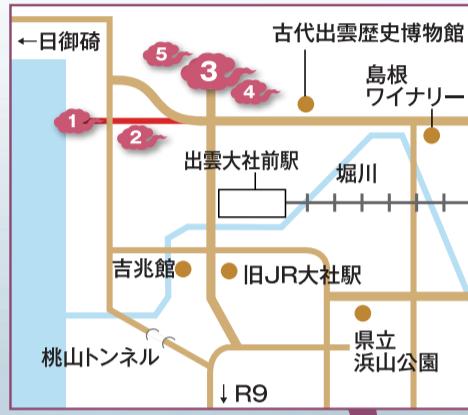
神在祭の期間中、神々は出雲大社の両側にある「十九社」で、東日本と西日本に分かれて、それぞれのお社にご宿泊されます。神々が滞在される1週間は、この社のすべての扉が開かれます。

## 5 上宮(仮宮)

神在祭の期間中、全国の神々は上の宮で、神議(かむはかり・会議)をされます。素戔鳴尊(すさのおのみこと)と八百万神がご神である出雲大社の摂社です。

# 神在月 由縁の地

## 出雲にお越しになつた八百万の神々は…



凡例
国道
主要道路
山陰道
JR
一畠電車



## 6 朝山神社

ご祭神は、真玉著玉邑姫命(またまついたまむらひめのみこと)。清らかな森の空気と清流で心洗われる標高170mの山頂付近に鎮座しています。全国の八百万神が出雲に参集された際に、まずこのお社に立ち寄つてから神議をし、出雲大社へ向かわれるという伝承があります。

## 7 日御碕神社

天照大御神(あまでらすおおみかみ)を祭神とする「日沉宮」(ひしづみのみや)と、素戔鳴尊(すさのおのみこと)を祭神とする「神の宮」の上下両宮を中心とした社殿。うち14棟と鳥居、石灯籠は国の重要文化財に指定されています。

青い日本海と緑の松林を背景とした「朱の神殿」は、鮮やかさを際立たせ、さらながら竜宮城のたたずまいを見せます。

## 8 万九千神社

櫛御氣奴命(くしみけぬのみこと)、大穴牟遲命(おおあなむちのみこと)、少彦名命(すくなひこのみこと)の三柱と八百万神がご祭神。神在月に出雲に参集した八百万神は、最後にここに立ち寄り、神議を締めくくつて直会(なおらい・酒宴)を催し、明年の再会を期して全国への帰路に着くという伝承が伝わっています。平成26年10月に、136年ぶりのお建替(正遷宮)が執り行われました。

## 9 からさで大橋

参集された神々が全国へお帰りになることを、出雲独特の言葉で「神等去出(からさで)」と呼びます。また、神々が会議を締めくくり、直会を催される「万九千神社」の近くでは、「神立(かんだち)」が地名となり、橋名にもなっています。

## 10 神立橋